

3. 小学校高学年生から中学生の時期に継続した BLS（一次救命処置）講習が及ぼす影響と効果

○岡本 華枝（関西福祉大学看護学部），高山 宏明（美作市消防本部）
畑 修治（津山圏域消防組合），薄元 亮二（薄元医院）

I. はじめに

平成 16 年から医療従事者だけでなく、一般市民も自動体外式除細動機（AED）の使用が可能となり、全国の小中高等学校にも設置された。学校管理下での心肺停止は目撃例が多く居合わせた人たちによる一次救命処置が有効である。若年者は、その長い人生の間に心肺停止者に遭遇する機会は年長者よりも多いと考えられる。また、小中学生であれば、その後の進学先や運転免許取得時等で再び一次救命処置の学習機会があり、繰り返して学ぶことの効果が期待される。本研究では、救急蘇生ガイドラインに準拠した BLS（一次救命処置）講習を実施し、継続的な講習の効果を明らかにすることを目的とした。

II. 方法

対象者は、A 中学校 2 年生の生徒 104 名である。クラス毎に BLS 講習を実施し、講習前後に留置法による自作の質問紙調査をおこなった。対象者を小学校 5・6 年生時に筆者らによる BLS 講習を受けた生徒と受けたことのない生徒の 2 群に分けた。2 群間の比較は Fisher's exact test を用い、変数には χ^2 検定をおこなった。統計解析には SPSS17.0J for Windows を使用し、有意水準を $P < 0.05$ とした。倫理的配慮は A 中学校教育委員会、市医師会の承認を得て、中学校長および対象者に研究目的と方法、研究参加拒否による不利益がないことを説明し、同意を得た。

III. 結果

対象生徒 104 名の内、100 名から講習会前におこなった質問紙を回収することができた（回収率 96.2%）。小学校から継続して講習を受けている生徒（以下、既受講生徒）は 84 名で、講習の経験のない生徒（以下、初受講生徒）は 16 名であった。

「中学校の AED の設置場所がわかりますか」の問いに、初受講生徒は「はい」が 25.0%であったが、既受講生徒は 59.5%と有意に高かった（ $P < 0.05$ ）。「家族や友達が倒れた時に自分から行動できますか」の問いに「はい」と回答した生徒は、初受講生徒より既受講生徒の方が有意に高かった（ $P < 0.05$ ）。受講前のアンケートでは、心肺蘇生法の手順の自己評価を「できる」「できるかも」と回答したものを「できる群」、「できないかも」「できない」と回答したものを「できない群」の 2 群として分析した。その結果、「胸骨圧迫」「AED の使用」の 2 項目で「できる群」は、初受講生徒より既受講生徒で有意に高かった（ $P < 0.05$ ）。

IV. 結論

BLS 講習の継続教育によって、学校内の AED の設置場所を認識し、いざという時に自ら人の命を助けるといった意識が強くなっていることが伺えた。また、若年者は心肺蘇生法で一番主要な胸骨圧迫の手順や AED の使い方について、翌年以降も高率に記憶していることから、継続教育がより学習効果に有効で意義のあることが示唆された。